

# 四半期報告書

(第26期第2四半期)

GMOフィナンシャルゲート株式会社



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	5
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	19

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年5月13日

【四半期会計期間】 第26期第2四半期(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

【会社名】 GMOフィナンシャルゲート株式会社

【英訳名】 GMO Financial Gate, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 杉山 嘉太郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号

【電話番号】 03-6416-3881 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 コーポレートサポート本部本部長 玉井 伯樹

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号

【電話番号】 03-6416-3881 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 コーポレートサポート本部本部長 玉井 伯樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第2四半期 連結累計期間	第26期 第2四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 2022年10月1日 至 2023年3月31日	自 2023年10月1日 至 2024年3月31日	自 2022年10月1日 至 2023年9月30日
売上高 (千円)	7,264,812	9,244,148	15,909,069
経常利益 (千円)	633,973	916,784	1,114,159
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	394,368	551,697	746,433
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	398,548	577,891	781,688
純資産額 (千円)	4,732,654	5,329,154	5,115,795
総資産額 (千円)	8,493,340	11,011,702	9,262,240
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	47.77	66.52	90.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	47.42	66.32	89.74
自己資本比率 (%)	53.7	46.3	53.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,196,051	484,802	865,913
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△293,544	△415,588	△529,945
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,282,990	135,273	1,280,529
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,180,579	4,208,170	4,003,682

回次	第25期 第2四半期 連結会計期間	第26期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年1月1日 至 2023年3月31日	自 2024年1月1日 至 2024年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	27.09	31.47

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は株式給付信託（BBT及びJ-ESOP）を導入しております。当該株式給付信託が所有する当社株式について四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定するための普通株式の期中平均株式数については、当該株式給付信託が所有する当社株式の数を控除しております。
3. 当社は、2023年1月17日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第25期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間については、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生はありません。また、2023年12月18日付提出の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### ① 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2023年10月1日～2024年3月31日）の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	増減率(%)
売上高	7,264,812	9,244,148	27.2
営業利益	635,642	922,731	45.2
経常利益	633,973	916,784	44.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	394,368	551,697	39.9

##### a. 売上高

売上高は9,244,148千円(前年同期比27.2%増)となりました。

例年、第2四半期連結会計期間は季節性の影響により多くの加盟店決済取扱高が第1四半期連結会計期間比で伸びづらい傾向にあるものの、当第2四半期連結会計期間については訪日外国人数の増加に伴うインバウンド需要の増加も追い風となり、当社の主要KPIである決済処理件数及びGMV（決済処理金額）は第1四半期連結会計期間比で順調に拡大いたしました。

イニシャル売上の大部分を占める決済端末販売は、当第2四半期連結会計期間においても次世代決済端末「steria」が中心を担いました。加えて、店舗の無人化・省人化ニーズの高まりに伴うIoT端末の伸長や、タクシーなどの移動体におけるモバイル端末需要も高く、イニシャル売上に貢献しました。当第2四半期連結会計期間におけるIoT端末の具体的な導入先としては、首都圏の大型スーパーや全国展開する百円均一ショップにおけるセルフレジ、全国展開するコインパーキングにおける無人精算機などが挙げられ、IoT端末の伸長に貢献しました。

また、リカーリング型売上（ストック、フィー及びスプレッドの合計）においては、年末商戦の繁忙期を含む第1四半期連結会計期間と比べて、1～2月の閑散期を含む第2四半期連結会計期間は例年伸び悩む傾向にありますが、当第2四半期連結会計期間については当社決済端末の新規設置に加えインバウンド需要の拡大も寄与し、第1四半期連結会計期間を上回る売上となりました。

当第2四半期連結累計期間の品目別売上高は、以下のとおりです。リカーリング型はストック、フィー及びスプレッドの合計であり、括弧書きの数字はリカーリング型の内訳となります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	増減率(%)
イニシャル	5,125,787	6,059,085	18.2
リカーリング型	2,139,025	3,185,062	48.9
ストック	(543,371)	(818,678)	(50.7)
フィー	(1,059,585)	(1,695,922)	(60.1)
スプレッド	(536,069)	(670,462)	(25.1)
合計	7,264,812	9,244,148	27.2

#### b. 営業利益

営業利益は922,731千円(前年同期比45.2%増)となりました。

高い営業利益成長の背景として、①イニシャル売上の大部分を占める決済端末販売において、利益率の高いIoT端末の売上構成割合が上昇したこと、②決済処理件数及びGMV（決済処理金額）の拡大に伴い利益貢献度の高いリカーリング型売上が伸長したこと、の2点が挙げられます。また、同時に成長を支えるための人材採用、役職員還元、各種成長投資は当第2四半期連結会計期間においても積極的に実施しつつも、売上高拡大に伴うオペレーティングレバッジ（注）の向上により、高い営業利益成長を実現しております。

(注) 売上高拡大が費用（固定費及び変動費）を吸収し、売上高成長率よりも利益成長率の方が高くなる（利益率が上昇する）構造・原理のこと。

#### c. 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は551,697千円(前年同期比39.9%増)となりました。

なお、当社グループは対面決済サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

### ② 財政状態の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は9,118,260千円となり、前連結会計年度末に比べ1,613,051千円増加いたしました。これは主に決済端末を今後の販売見通しに基づいて一定水準まで確保したことにより商品が948,244千円、決済端末の販売が順調に推移したことにより売掛金が372,381千円増加したこと等によるものであります。固定資産は1,893,441千円となり、前連結会計年度末に比べ136,410千円増加いたしました。これは主に繰延税金資産が54,107千円減少した一方で、投資有価証券が99,994千円、ソフトウェアが97,966千円増加したこと等によるものであります。

この結果、資産合計は11,011,702千円となり、前連結会計年度末に比べ1,749,461千円増加いたしました。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,619,735千円となり、前連結会計年度末に比べ1,014,877千円増加いたしました。これは主に買掛金が481,336千円、預り金が437,604千円増加したこと等によるものであります。固定負債は2,062,812千円となり、前連結会計年度末に比べ521,224千円増加いたしました。これは主に長期借入金が500,000千円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は5,682,547千円となり、前連結会計年度末に比べ1,536,101千円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は5,329,154千円となり、前連結会計年度末に比べ213,359千円増加いたしました。これは主に剰余金の配当382,027千円により利益剰余金が同額減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益551,697千円の計上により利益剰余金が同額増加したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は前連結会計年度末に比べ204,488千円増加し4,208,170千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果、獲得した資金は484,802千円(前年同期は1,196,051千円の使用)となりました。これは主に棚卸資産の増加948,312千円により資金が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益916,784千円、仕入債務の増加481,336千円等により資金が増加したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果、使用した資金は415,588千円(前年同期は293,544千円の使用)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出310,576千円、投資有価証券の取得による支出99,994千円等により資金が減少したものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果、獲得した資金は135,273千円(前年同期は1,282,990千円の獲得)となりました。これは主に配当金の支払額382,027千円により資金が減少した一方で、長期借入れによる収入500,000千円等により資金が増加したものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,761,360
計	28,761,360

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2024年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年5月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	8,339,480	8,339,480	東京証券取引所 (グロース市場)	単元株式数は100株であります。
計	8,339,480	8,339,480	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2024年1月1日～ 2024年3月31日 (注)	34,140	8,339,480	8,747	1,638,680	8,747	1,651,791

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

## (5) 【大株主の状況】

2024年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
GMOペイメントゲートウェイ株式会社	東京都渋谷区道玄坂1丁目2-3	4,713,180	56.51
JP MORGAN CHASE BANK 385839 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15-1)	267,100	3.20
THE BANK OF NEW YORK 133652 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	BOULEVARD ANSPACH1, 1000 BRUSSELS, BELGIUM (東京都港区港南2丁目15-1)	240,600	2.88
豊山 慶輔	福岡県福岡市城南区	215,980	2.58
MORGAN STANLEY & CO. LLC (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社)	1585 BROADWAY NEW YORK, NEW YORK 10036, U.S.A. (東京都千代田区大手町1丁目9番7号)	125,540	1.50
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7)	113,300	1.35
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	109,100	1.30
MSCO CUSTOMER SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社)	1585 Broadway New York, New York 10036, U.S.A. (東京都千代田区大手町1丁目9-7)	107,959	1.29
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証 券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木6丁目10-1)	103,834	1.24
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8-12	101,600	1.21
計	—	6,098,193	73.12

(注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式388株があります。

2. 所有株式数の割合は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,333,000	83,330	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式は100株であります。
単元未満株式	普通株式 6,180	—	—
発行済株式総数	8,339,480	—	—
総株主の議決権	—	83,330	—

- (注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄の株式数には、株式給付信託（BBT及びJ-ESOP）が所有する当社株式18,800株（議決権の数188個）が含まれております。  
 2. 「単元未満株式」欄の株式数には自己株式88株が含まれております。

② 【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合 (%)
GMOフィナンシャル ゲート株式会社	東京都渋谷区道玄坂1-14-6	300	—	300	0.0
計	—	300	—	300	0.0

- (注) 株式給付信託（BBT及びJ-ESOP）が所有する当社株式18,800株については、上記の自己株式等に含まれておません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2024年1月1日から2024年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年10月1日から2024年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

### (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,015,682	4,216,506
売掛金	920,725	1,293,107
商品	2,396,179	3,344,423
その他	181,151	275,928
貸倒引当金	△8,529	△11,705
流動資産合計	7,505,209	9,118,260
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	84,575	79,261
無形固定資産		
ソフトウエア	1,062,072	1,160,038
ソフトウエア仮勘定	117,035	155,961
顧客関連資産	42,810	21,405
のれん	133,315	111,096
その他	60	60
無形固定資産合計	1,355,293	1,448,561
投資その他の資産		
投資有価証券	—	99,994
敷金	47,033	45,939
破産更生債権等	1,043	1,068
繰延税金資産	237,641	183,533
その他	32,486	36,150
貸倒引当金	△1,043	△1,068
投資その他の資産合計	317,161	365,618
固定資産合計	1,757,031	1,893,441
<b>資産合計</b>	<b>9,262,240</b>	<b>11,011,702</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1,075,275	1,556,612
未払法人税等	201,123	316,227
契約負債	89,224	182,245
預り金	375,741	813,345
賞与引当金	392,760	284,669
役員賞与引当金	107,576	104,020
その他	363,157	362,614
<b>流動負債合計</b>	<b>2,604,857</b>	<b>3,619,735</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,500,000	2,000,000
株式給付引当金	4,524	12,839
役員株式給付引当金	23,954	43,418
繰延税金負債	13,108	6,554
<b>固定負債合計</b>	<b>1,541,587</b>	<b>2,062,812</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,146,445</b>	<b>5,682,547</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>	<b>1,629,932</b>	<b>1,638,680</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>1,643,043</b>	<b>1,651,791</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>1,764,019</b>	<b>1,933,688</b>
<b>自己株式</b>	<b>△123,529</b>	<b>△123,529</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>4,913,464</b>	<b>5,100,630</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>202,330</b>	<b>228,524</b>
<b>純資産合計</b>	<b>5,115,795</b>	<b>5,329,154</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>9,262,240</b>	<b>11,011,702</b>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	7,264,812	9,244,148
売上原価	5,518,271	6,543,482
売上総利益	1,746,541	2,700,665
販売費及び一般管理費	※ 1,110,898	※ 1,777,934
営業利益	635,642	922,731
営業外収益		
受取利息	11	21
その他	3	150
営業外収益合計	14	172
営業外費用		
支払利息	1,651	6,119
その他	32	—
営業外費用合計	1,684	6,119
経常利益	633,973	916,784
特別損失		
固定資産除却損	11,920	—
特別損失合計	11,920	—
税金等調整前四半期純利益	622,053	916,784
法人税、住民税及び事業税	182,054	291,339
法人税等調整額	41,450	47,553
法人税等合計	223,505	338,892
四半期純利益	398,548	577,891
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,180	26,194
親会社株主に帰属する四半期純利益	394,368	551,697

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益	398,548	577,891
四半期包括利益	398,548	577,891
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	394,368	551,697
非支配株主に係る四半期包括利益	4,180	26,194

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	(単位：千円)
	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	622,053	916,784
減価償却費	187,930	216,860
のれん償却額	22,219	22,219
賞与引当金の増減額（△は減少）	△119,140	△108,091
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	2,490	△3,556
株式給付引当金の増減額（△は減少）	2,178	8,315
役員株式給付引当金の増減額（△は減少）	5,988	19,463
貸倒引当金の増減額（△は減少）	7,696	3,200
固定資産除却損	11,920	—
受取利息	△11	△21
支払利息	1,651	6,119
売上債権の増減額（△は増加）	△549,497	△372,381
棚卸資産の増減額（△は増加）	△1,624,534	△948,312
仕入債務の増減額（△は減少）	492,692	481,336
預り金の増減額（△は減少）	123,806	437,604
その他	△66,260	△12,303
小計	△878,816	667,238
利息の受取額	11	21
利息の支払額	△1,651	△6,119
法人税等の支払額	△315,594	△176,338
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,196,051	484,802
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△66,968	△5,017
無形固定資産の取得による支出	△226,560	△310,576
投資有価証券の取得による支出	—	△99,994
その他	△15	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△293,544	△415,588
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（△は減少）	1,000,000	—
長期借入れによる収入	500,000	500,000
新株予約権の行使による株式の発行による収入	23,890	17,495
自己株式の取得による支出	△1,137	—
配当金の支払額	△239,539	△382,027
その他	△223	△194
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,282,990	135,273
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△206,605	204,488
現金及び現金同等物の期首残高	2,387,185	4,003,682
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,180,579	※ 4,208,170

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）

包括加盟店契約に関する事項

当社は、継続的役務を提供する加盟店が提供完了前に経営破綻などに陥り、継続的役務の提供が出来なくなつた場合、包括加盟店契約等に基づき、当該加盟店の未消化役務残高の一部を負担する可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
役員報酬	63,150千円	68,844千円
給料及び手当	284,750	323,477
賞与引当金繰入額	122,360	284,669
株式給付引当金繰入額	2,178	8,315
役員賞与引当金繰入額	61,790	104,020
役員株式給付引当金繰入額	5,988	19,463
貸倒引当金繰入額	8,554	3,362

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
現金及び預金	2,190,347千円	4,216,506千円
株式給付信託（BBT及びJ-ESOP）	△9,767	△8,336
別段預金		
現金及び現金同等物	2,180,579	4,208,170

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月21日 取締役会	普通株式	239,539	58.00	2022年9月30日	2022年12月19日	利益剰余金

(注) 当社は、2023年1月17日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の実際の配当額を記載しております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月20日 取締役会	普通株式	382,027	46.00	2023年9月30日	2023年12月19日	利益剰余金

(注) 2023年11月20日取締役会の決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT及びJ-ESOP)の所有する当社株式に対する配当金864千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

当社グループの事業セグメントは、対面決済サービス事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

当社グループの事業セグメントは、対面決済サービス事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）

(単位：千円)

品目	顧客との契約から 生じる収益	外部顧客への 売上高	収益認識の時期	
			一時点で 移転される財 又はサービス	一定期間に わたり 移転される財 又はサービス
イニシャル	5,125,787	5,125,787	5,102,148	23,638
ストック	543,371	543,371	532,621	10,749
フィー	1,059,585	1,059,585	1,059,585	—
スプレッド	536,069	536,069	536,069	—
合計	7,264,812	7,264,812	7,230,424	34,388

当第2四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）

(単位：千円)

品目	顧客との契約から 生じる収益	外部顧客への 売上高	収益認識の時期	
			一時点で 移転される財 又はサービス	一定期間に わたり 移転される財 又はサービス
イニシャル	6,059,085	6,059,085	5,978,020	81,065
ストック	818,678	818,678	789,069	29,608
フィー	1,695,922	1,695,922	1,695,922	—
スプレッド	670,462	670,462	670,462	—
合計	9,244,148	9,244,148	9,133,474	110,673

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年10月 1 日 至 2023年 3月 31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年10月 1 日 至 2024年 3月 31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	47円77銭	66円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	394, 368	551, 697
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	394, 368	551, 697
普通株式の期中平均株式数(株)	8, 254, 844	8, 293, 800
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	47円42銭	66円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数(株)	61, 768	25, 107
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

- (注) 1. 当社は株式給付信託 (BBT及びJ-ESOP) を導入しております。当該株式給付信託が所有する当社株式については四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益を算定するための普通株式の期中平均株式数については、当該株式給付信託が所有する当社株式の数を控除しております (前第 2 四半期連結累計期間 18, 800株 当第 2 四半期連結累計期間 18, 800株)。
2. 当社は、2023年 1月 17日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## **第二部 【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年5月13日

GMOフィナンシャルゲート株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 矢 部 直 哉  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 黒 木 賢 治  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 鶴 田 直 樹  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているGMOフィナンシャルゲート株式会社の2023年10月1日から2024年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年1月1日から2024年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年10月1日から2024年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、GMOフィナンシャルゲート株式会社及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



## 【表紙】

【提出書類】

確認書

【根拠条文】

金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】

関東財務局長

【提出日】

2024年5月13日

【会社名】

GMOフィナンシャルゲート株式会社

【英訳名】

GMO Financial Gate, Inc.

【代表者の役職氏名】

代表取締役社長 杉山 憲太郎

【最高財務責任者の役職氏名】

取締役 コーポレートサポート本部本部長 玉井 伯樹

【本店の所在の場所】

東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号

【縦覧に供する場所】

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

**1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】**

当社代表取締役社長杉山憲太郎及び当社最高財務責任者玉井伯樹は、当社の第26期第2四半期（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

**2 【特記事項】**

確認に当たり、特記すべき事項はありません。